

福祉の先進国、肌で感じた現場

坂牛 雄大 さん・米澤 蘭 さん・旭岡 琴巴 さん
(介護福祉学校2年)

4年ぶりの福祉の先進地・フィンランドへの留学事業。海外自体が初めてという3人の学生が派遣され、無事に帰国しました。

「貴重な経験でした。町の代表として派遣していただき感謝申し上げます」とリーダーの旭岡さんが話すように、ホームステイや調理体験、保育・介護施設での交流など、約2週間の研修を有意義に過ごしました。

坂牛さんは「限りある研修の中で、時間も意識しながら学べました」と振り返り、米澤さんは「働く姿勢の違い」について学んだと話し「海外特有の相手に干渉しすぎない文化が介護の現場でも感じました。それが故に誰にでも平等に関わる姿勢は、日本では味わえない視野の広がる経験でした」と語ります。

今後3人は、活動報告会を行う予定です。



責任感と自由な発想、お互いの目標へ

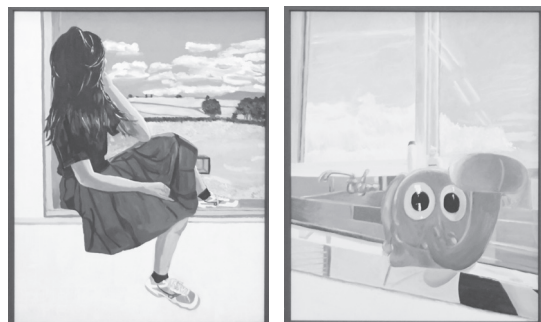
谷内 友 さん・干場 柚希 さん (栗山高校2年)

中学校からの親友でもある美術部の2人。いつも和やかな雰囲気、好きな絵を描いているそうです。

現在は、今年入部した1年生2人を加えた4人で活動中。部長の干場さんは「去年までいた先輩が卒業したことで、その存在の大きさを感じています。活動のメリハリ、指示出しなど正直まだまだです。もっと責任感を持たないと」と話します。

ただ、高文連では干場さんが最高賞の優秀賞(全33作品が選出)、谷内さんは奨励賞を獲得。活動とともに技術も磨かれていることが伺えます。谷内さんは「他の優秀作品の自由度に驚いた。自分の自由な発想を意識して制作したい」と話します。

活動の姿勢・技術にそれぞれ課題と目標を持つ2人。部として個として、今後の成長に繋がることでしょう。



高文連で入賞した2人の作品。谷内さんの作品「me-time」(左) 干場さんの作品「ともだち」(右)